

東京と今和次郎

—「動き」としての惑星都市論—

関東大震災の復興事業が終わりつつあった1929年、今和次郎たちは『新版大東京案内』を出版した。その内容は、今の「動き」の都市論と1923年以降のモダン東京風俗研究である「考現学」の混成であり、またそれは「動く東京」というイメージを描いた案内書でありながら、東京住民、いわば「都会人」を育てる啓蒙書でもあった。

本発表では『新版大東京案内』の分析を通じて、近年注目されつつある「惑星論」「惑星都市論」を批判的にとらえ返し、都市を「動き」として論じていた今和次郎が、すでに「惑星都市論」の視点から東京を描いていたことを明らかにする。

報告

クリストフ・トゥニ

立命館大学グローバル教養学部准教授

司会

横山 泰子

法政大学国際日本学研究所長
法政大学理工学部教授

コメンテーター

陣内 秀信

法政大学江戸東京研究センター特任教授

参加無料

2021年7月31日(土)
14時~15時30分



オンライン開催 (Zoom)

事前申し込みが必要です。
申し込みサイトURL

<https://forms.gle/xE5TgqJji65Z9nWm8>